

ひめした
姫下遺跡

所在地 安城市小川町
(北緯34度54分52秒 東経137度05分49秒)

調査理由 中小河川改良事業(鹿乗川)

調査期間 平成26年12月～平成27年3月

調査面積 1,200㎡

担当者 酒井俊彦



調査地点(1/2.5万「西尾」)

調査の経過 調査は中小河川改良事業(鹿乗川)に伴い、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて当センターが委託を受けて実施したものである。本遺跡は平成17・18年度に調査を行い、今年度で3回目、総調査総面積は8620㎡である。今年度は、平成18年度の06C区の南側の調査を行った。

立地と環境 本遺跡は矢作川下流域、鹿乗川左岸の沖積地に立地する。平成12年度より本センターが調査を行っている鹿乗川左岸には、北から南にかけて姫下、寄島、下懸、五反田、惣作の5遺跡が連続して所在する。遺跡の西方の鹿乗川右岸の碧海台地上には前方後円墳である姫小川古墳があり、この時期の古墳群が展開する。現在の鹿乗川は碧海台地東辺を南流し、川の西側の遺跡周辺は平坦な沖積地である。中世以前の鹿乗川は矢作川沖積地を蛇行して走り、下懸遺跡、惣作遺跡、姫下遺跡で東西方向の旧河道が確認されている。遺跡はこの旧河川の自然堤防上に展開する。標高は約7mである。これまでの調査で弥生時代中期、古墳時代前～中期、平安時代の集落が確認されている。今年度の調査区の北に隣接する06C区では北東から南西に走る古墳時代前期以前の旧河道が検出されている。この北側に平安時代の竪穴建物からなる集落が展開する。今年度の調査区に連続する旧河道の南側では古墳時代前期の遺構群が確認された。

調査の概要 調査は上下二面で行った。現代の耕作土直下の古墳時代から古代の包含層である黒褐色土層面で上面遺構を検出し、この下層の基盤面で下面の遺構を検出した。上面では主な遺構として、江戸時代後半の東西および南北方向に直線的にはしる溝3条と大形土坑1基が検出された。遺構からは瀬戸窯産施釉陶器、土師器鍋、常滑窯産甕が出土した。下面では古墳時代後半～奈良時代および古墳時代前半の遺構が確認された。前者の遺構では北西から南東に走る溝が検出された。古墳時代前半の遺構として、竪穴建物、掘立柱建物、土坑、溝が検出された。遺存状況は悪く、竪穴建物11棟、掘立柱建物3棟が確認された。溝は幅30cm程度で数条平行して走るものである。古墳時代後半から奈良時代の遺構からは、須恵器、土師器が少量出土した。

まとめ 本遺跡の南を画すると推定される旧河道が06C区にあり、この南側において遺跡の広がりを確認することが今年度の課題であった。調査の結果、古墳時代集落が展開し、少数の古代の遺構も検出された。また、古墳時代の平行して走る溝群は、南に隣接する寄島遺跡の遺構と類似するものである。自然地形の関連を考慮して、古墳時代から古代にかけての遺跡の展開を検討する必要がある。

(酒井俊彦)



上面遺構検出状況



近世土坑検出状況



上面遺構完掘状況



上面遺構完掘状況（南より）



下面竪穴建物群検出状況



下面遺構検出状況（南より）



下面遺構検出状況（西より）



遺跡全景（南より）